



日本の、
新しい未来をつくる！

経済再生を実現します。
すべての世代が
幸せを実感できる社会へ！

経済再生担当大臣 衆議院議員

しんどう 義孝

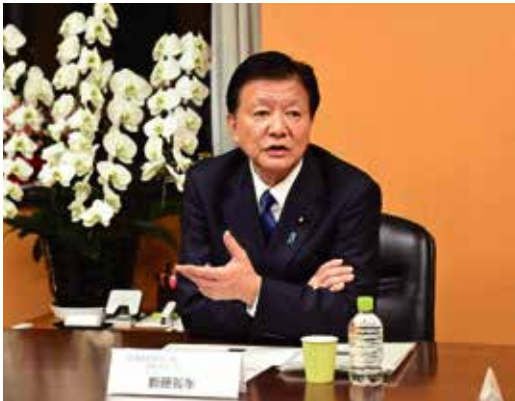
www.shindo.gr.jp X f LINE

よしたか

室内用

週刊新藤

2024年8月29日(木)
第299号



日本経済の展望 GDP600兆円に!

今号では最新の経済状況をご報告します。

企業部門は引き続き、経常利益・営業利益ともに過去最高を更新し、投資意欲も旺盛であるなど好調であることに加え、家計部門についても、4-6月期のGDP速報を見ると、実質雇用者報酬が約3年ぶりに前年比プラスに転じ、実質個人消費が5四半期ぶりの前期比プラスとなるなど、個人消費に持ち直しの動きがみられること、などを踏まえたものです。

2024年4-6月期の名目GDPは、年率換算で史上初めて600兆円を超えました。我が国経済を振り返ると、名目GDPは、1973年度に初めて100兆円を超えて以降、約5年ごとに100兆円ずつ増加してきました。

しかし、1992年度に名目GDPが500兆円を超えてから、我が国経済は、長引くデフレや金融システム危機、リーマンショック、東日本大震災、新型コロナなど、様々な困難に見舞われてきました。この結果、長期にわたり、名目GDPは500兆円台での推移が続いてきました。

アベノミクスを開始した2013年1-3月期には502兆円であった名目GDPは、2017年度には550兆円を超え、さらに、岸田内閣の「新しい資本主義」の取組を進めた結果、今回、32年の長きを経て、600兆円を超えるに至りました。これは新しい経済ステージの実現に向けた一里塚であると考えています。

また、名目設備投資額については、昨年の1-3月期に100兆円を超え、今年の4-6月期には106兆円と、1991年以来33年ぶりに過去最高を更新しました。

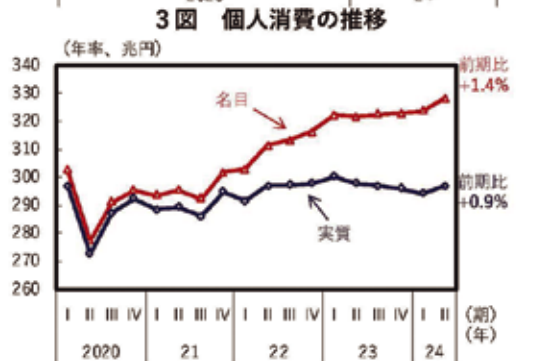
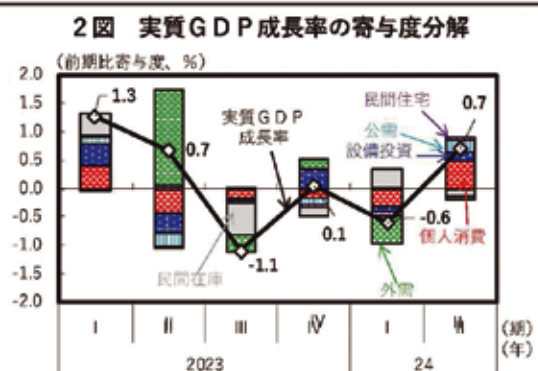
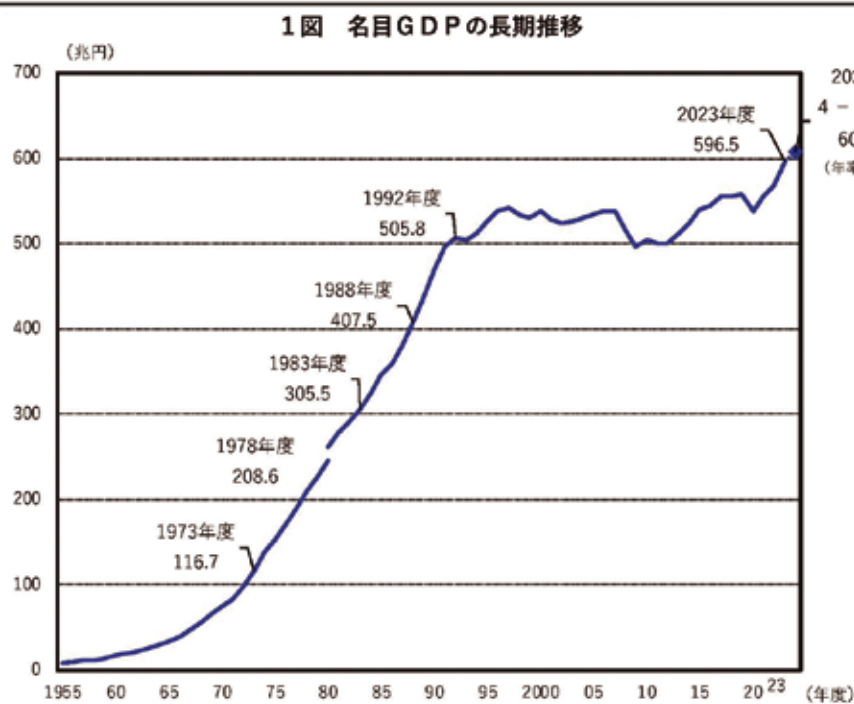
こうした設備投資のうち、約2割は研究開発投資です。企業の研究開発投資額は、2024年度の計画でプラス8.7%と、引き続き高い投資意欲がみられます。

研究開発は、将来の成長の源泉です。OECDの調査によれば、日本のこどもの15歳時点での数学的、科学的リテラシーは、男子・女子ともに、OECD加盟国中1位であるなど、研究開発のポテンシャルは高いと言えます。

こうした潜在的な能力の高い人材が存分に力を発揮し、研究開発投資が成長やイノベーションにつながるよう、AI時代に対応した高等教育における高度専門人材の育成、企業における組織マネジメントの改革や経営者のリ・スキリング等を進める必要があります。

今月のポイント (1) GDPの動向

- ◆ 我が国の名目GDPは、1973年度に初めて100兆円を超えて以降、約5年毎に約100兆円ずつ増加し、1992年度に500兆円を超えたが、その後約30年の間、500兆円台で推移。2024年4-6月期に年率換算で史上初めて600兆円を超えた(1図)。
- ◆ 4-6月期の実質GDPは前期比+0.7%(年率+2.9%)と、2四半期ぶりのプラス成長。消費や投資をはじめ内需が押し上げに寄与(2図)。個人消費は、物価上昇の下でも増加し、5四半期ぶりに実質でもプラス(3図)。



■新藤義孝 PROFILE

1958年(昭和33年)埼玉県川口市生まれ 当選8回
経済再生担当大臣、新しい資本主義担当大臣、スタートアップ担当大臣、感染症危機管理担当大臣、
全世代型社会保障改革担当大臣、内閣府特命担当大臣(経済財政政策)。元総務大臣(第2次安倍内閣)

■後援会事務所

〒332-0034 川口市並木1-10-22
TEL.048-254-6000 FAX.048-254-5550

公式ウェブサイト www.shindo.gr.jp

X Facebook LINE [こちらから▶](#)



(討議資料)